

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年5月31日(2018.5.31)

【公開番号】特開2017-221813(P2017-221813A)

【公開日】平成29年12月21日(2017.12.21)

【年通号数】公開・登録公報2017-049

【出願番号】特願2017-189394(P2017-189394)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月10日(2018.4.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面側を遊技球が流下可能な遊技盤と、前記遊技盤に設けられ、遊技球が入球可能な入賞口を有する入球ユニットとを備えた遊技機において、

前記入球ユニットの前側には遊技領域を背部領域として形成するカバー部が設けられ、前記カバー部の盤面側には前記遊技球の流通を案内する流通案内手段が設けられ、

前記流通案内手段として、遊技球の流路を分岐させる非可動の固定部材として設けられ前記入賞口へと向かうように遊技球を転動させる傾斜面を有する分岐部を備え、該分岐部によって、前記入賞口に流通可能な第 1 流路と前記入賞口に流通しない第 2 流路とに遊技球が分岐されるようになっており、

前記カバー部は、該カバー部の盤面側の遊技領域を流通する遊技球を視認可能に透明に構成されており、

前記カバー部の盤面側には遊技釘が設けられておらず、前記流通案内手段によってのみ遊技球の流通が案内されるようになっており、

前記分岐部の前記傾斜面に到達した遊技球が該傾斜面を前記入賞口へと向かうように転動したとき、前記開閉部材が開放状態にある場合には必ず該開閉部材によって前記入賞口へと案内される

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

ところで、上述した従来の遊技機では、遊技領域に設けられる入賞口ユニットとして遊技興趣の低下を抑制する新たなものが望まれている実情にある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記の実情に鑑み、遊技興趣の低下を抑制することが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本願発明は、前面側を遊技球が流下可能な遊技盤と、前記遊技盤に設けられ、遊技球が入球可能な入賞口を有する入球ユニットとを備えた遊技機において、

前記入球ユニットの前側には遊技領域を背部領域として形成するカバー部が設けられ、

前記カバー部の盤面側には前記遊技球の流通を案内する流通案内手段が設けられ、

前記流通案内手段として、遊技球の流路を分岐させる非可動の固定部材として設けられ前記入賞口へと向かうように遊技球を転動させる傾斜面を有する分岐部を備え、該分岐部によって、前記入賞口に流通可能な第1流路と前記入賞口に流通しない第2流路とに遊技球が分岐されるようになっており、

前記カバー部は、該カバー部の盤面側の遊技領域を流通する遊技球を視認可能に透明に構成されており、

前記カバー部の盤面側には遊技釘が設けられておらず、前記流通案内手段によってのみ遊技球の流通が案内されるようになっており、

前記分岐部の前記傾斜面に到達した遊技球が該傾斜面を前記入賞口へと向かうように転動したとき、前記開閉部材が開放状態にある場合には必ず該開閉部材によって前記入賞口へと案内される

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明によれば、遊技興趣の低下を抑制することが可能となる。